

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

2月・3月の活動

■冬水田んぼピオトープづくり学習会 2月7日(土)



100校以上の学校ピオトープづくりに関わる専門家から、ピオトープの基本知識と技術を学びます

講師 **三森典彰**

(株)ピオトープギルド代表
東京環境工科専門学校非常勤講師

開催日 **2月7日(土)**

時間 **午前10:00~12:00**

場所 **鳩山町公民館3F 第1研修室**

主催/問合せ NPO法人はとやま環境フォーラム

後援 鳩山町 鳩山町教育委員会 ☎049-227-3001

申し込みは
参加にお知らせ



熊井の森の石場沼下谷津でピオトープ事業を始めています。ピオトープ1号地と隣接するピオトープ2号地を年間を通して水が張っている「冬水田んぼ」に再生し、昆虫や水生生物の生息に適した環境を創出するのが目的です。石場沼用水路に落下した吸盤をもたないカエル（アマガエルなど）の救出のために、用水路内に40本の脱出装置を設置しました。

今後作業を進める上で、そもそもピオトープとは何か、最終目的をどこに置くか、をしっかりと勉強しましょう。熊

井の森写真学校でネイチャーフォト撮影技術を教えていた三森さんは、鳩山町農村公園づくりの際の調査に関わったこともあるピオトープづくりの専門家です。貴重なお話を聴きにぜひお越しください。

■ピオトープ周りの電柵張り 2月14日(土)



ピオトープ学習会の1週間後、2月14日(土)にはピオトープ1号地の残りの部分のネット付け&2号地のカメラ設置&電柵張りを予定しています。こちらにも参加くださるようお願いします。現地集合午前9時。8時30分までに「かわせみハウス」に来ていただいた方とは一緒に現地に向かいましょう。

■今年のハト麦づくりがスタート 2月8日(日)



今年は300㎡(1反)の休耕地がハト麦栽培場所です。連作障害対策で作付けは半分ずつ。それでもけっこうな広さです。近くの農家の空き地には駐車も出来ます。初仕事は刈取った葦の片付け。後日、畑の周りの水抜き溝掘りをして、堆肥撒きのあと、いよいよ畝立てです。ほかの農作物も作付け予定。一緒に楽しもうという方、ご一報を。

1月の活動報告

■森づくり説明会に若者らが参加 1月11日



鳩山町多世代交流センター集会室で説明会を開催。農業を始めたばかりの青年、すでにボランティアで森づくりをしている方、有機農家の女性、マウンテンバイク愛好者、森の学校を主催している方、東松山猟友会の方、毛呂山町で有機農業をしている方など、当団体スタッフを含めた多彩な12名が参加されました。

始めに、当団体の活動「熊井の森自然共生こもれびパーク事業」（案）の説明をしたあと、ハト麦茶の試飲をしてもらいながら、意見交換。「これから益々、ナラ枯れが深刻になる。熊井の森も例外ではない」「仲間集めには、行政からある程度の権限を与えてもらう必要があるのではないか」「協生農法は休耕地活用策として有力かと思う」など活発な意見交換がありました。



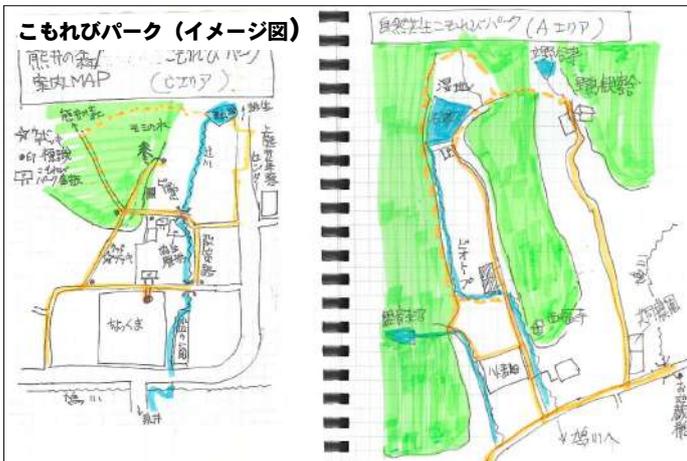
ていて、水平を出すことさえとても難しい。そして材料の寸法。これまで1間は180cmだと思っていました。しかし実際には181.8cmだったのです。思い込みって恐ろしい。そして、質素な作りの土台（砂利とピンコロと木材）、それでいて安定……難しいテーマです。でもそれが楽しい。皆さんも参加しませんか。パネルを搬入できる日が分かり次第、「タイムツリー」に作業日をアップしますので、来れそうな方はご一報ください。（井田）

■ビオトープ周りの柵づくり完了 1月18日



ウッドデッキづくりの作業と並行して、同時刻にビオトープづくりも行いました。ビオトープ2号地の周りをまず、草刈り。防獣対策用の電線に草が当たってショートさせないためです。その後に杭打ちと電線張りのための部品の据え付け作業。1号地には同じく杭打ちとイノシシ除けのネット張り。土のうも追加設置しました。ウッドデッキづくりを終えた人も合流して総勢8人の大人数での作業でした。

3月には、ビオトープ1号地に周辺の田んぼで撒いた農薬が流入しないように、迂回路となるU字溝を設置する作業が待っています。直近では、残りの作業（カメラの設置、電気柵の通電など）を2月14日に行います。



■トラスト1号地前看板撤去付替え 1月12日

「立野谷津のトラスト1・2号地の入り口付近に立てである看板が倒れている」と連絡があり、看板撤去に行きました。また、「ちよっくまの上の所に建っている物置テントのシートがめくれている」との連絡もいただきました。前日の強風が原因で、連絡いただいた方に感謝です。

■ウッドデッキ土台位置決めに挑戦 1月18日

雨交じりの寒い日でしたが、4人の参加でウッドデッキ土台作りに取り組みました。パネルの現物を1枚持ってきていただき、実際に置いてみての寸法出し。パネルは丈夫で耐久性には問題なしを確認できましたが、素人が、起伏の多い山の中にウッドデッキを作るのは想像以上に難しいことに改めて驚きました。山の中には木の根が張っ

2月・3月 活動スケジュール

2月	1日(日)	午前8時～	資源回収
	7日(土)	午前10時～	ビオトープ学習会
	8日(日)	午前10時～	ハト麦畑作業(茅始末)
	14日(土)	午前9時～	ビオトープづくり作業
	15日(日)	午前9時半～	理事会
	〃	午後1時半～	観察会
3月	1日(日)	午前8時～	資源回収
	6日(金)	午前10時～	ハト麦畑作業(茅始末)
	15日(日)	午前9時半～	理事会
	〃	午後1時半～	観察会

1月の活動報告

■フォーラム新年会で発酵飲料を試飲1月18日

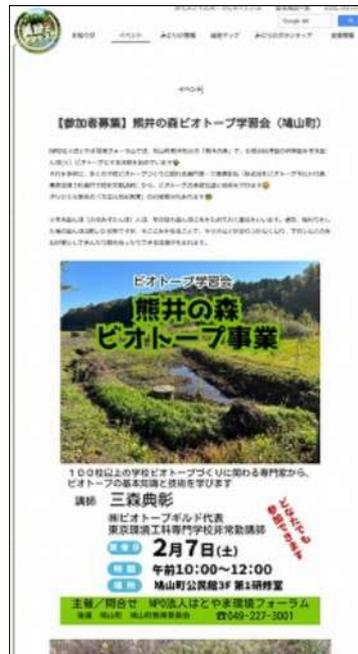


今年も新年会を迎えることが出来ました。忘年会の賑やかさとは違って、日頃の活動仲間12人が集まったの込み入った話は出ないしっとりした新年会となりました。

最近はお酒を飲む人がめっきり減り、車の運転で飲めない人もいて、日本酒、焼酎、ビール、ウイスキーとアルコール類はたっぷりあっても、手を出す人は数人。一方、たまたまあった「越後酵素 蓬緑」という発酵飲料は皆さんが試飲されました。ヨモギ、クマザサ、ハト麦、イチョウ葉、ウメ、キャベツ、昆布など、なんと80種以上の植物発酵液を原料としたもので、保存料、着色料、甘味料は不使用の日本成人病予防協会推薦品。味は好き好きで、評価は分かれましたが、これからは、こうした健康にまつわるものに関心が集まるのだろうと。われらのハト麦もあやかりたいものです。



■埼玉みどりのポータルサイトに活動情報が掲載



埼玉県が開設しているHP「埼玉みどりのポータルサイト」には、埼玉県の貴重な生き物やみどりについて学べる学習コンテンツ等が載っていますが、1月からこのサイトで、当団体の「団体概要」「イベント（直近の活動内容）」「活動報告（「熊井の森通信）」が見られるようになりました。同時に、みどり自然課が運営する「みどり自然課公式LINE」にもアップ。活動参加者が増えるのを期待しています。皆様もぜひご活用ください。

「地域おこし協力隊」って何？



令和2年度 地域おこし協力隊PR動画【埼玉県長瀬町】

自然保護活動でもよく話題になる「地域おこし協力隊」とは何のことか知っていますか。

人口減少や高齢化などの課題を抱える地域が都市部から人材を受け入れ、地域活性化に取り組む総務省所管の制度です。隊員数は2024年度で全国に7,910人。

任期は1～3年。地域ブランドや地場製品の開発・販売・PRから耕作放棄地の再生、野生生物保護管理、空き店舗の活用ほか、公共性のある事業ならなんでもOK。なんと、隊員の報償費（給料）が年額320万円まで支給され、それとは別に活動費として200万円程が国から出て、隊員1人当たり総支援額（報償費+活動費）最大520万円、という地方創生の目玉政策のひとつです。

皆さんの地元では地域おこし協力隊員が活躍していますか。埼玉県下では9自治体75人（2024年度）の隊員が活躍中です。人口減少率の基準外の自治体の場合は、国の制度とは別に、埼玉県版の制度もあり、鳩山町も「導入に向けた予算化を検討中」とのことです。

埼玉県 地域おこし協力隊 2024年度隊員数	
秩父市	14人
越生町	3人
小川町	12人
吉見町	2人
ときがわ町	2人
横瀬町	25人
皆野町	5人
小鹿野町	10人
神川町	2人

春の息吹の到来を静かに待つ楽しみ



先日、今年初の大雪が中国の故郷に訪れました。「素敵だわ、鳩山はいつ雪が降るのでしょうか」と雪の写真を見ながら想像を膨らませました。熊井の森の雪化粧の姿も一度見てみたいですが、雪が降らない冬の森にも見どころがたくさんあります。

ほかの季節よりも一段と明るい森の中には、静かな雰囲気漂っています。落ち葉に覆われた山道を歩かすと、ガサッガサッと音が立ち、時々かくれんぼをしていたどんぐりが勢いよく飛び出してきてびっくり。時には青々しい葉をつけたフユイチゴの群生に出会ったり、ノイバラやサルトリイバラの赤い実が目映ったり、鳥のさえずりを聞きながらその姿を目で追ったり、上を向いて広い空を眺めながら深呼吸をするなど、冬の森の楽しみ方はいろいろあります。

「冬来たりなば春遠からじ」。よく観察すると、落ち葉の下にはサイハイランの株が、地面にはナズナやコケ類が、樹木の枝には硬い新芽が、春の息吹の到来を静かに待っています。この待つことが植物たちにとってはとても大切なのです。さあ、今こそ、ゆっくりと冬の森を歩いてみませんか。(王 菲)

活動後記 ■当団体会員で、ゴルフ場開発問題をはじめ、3・11東日本大震災被災者支援ほか様々な地域活動に尽力され、地域情報紙「鳩山かわら版」の発行などでご一緒した竹林信明さんが12月16日に他界されました。享年78歳。■県内在住の方(91歳)から「鳩山に土地を持っているが、環境フォーラムに寄贈したい」との連絡あり。夫はずでに亡く、子供たちも相続の意思がない物件で始末に困っているという。こうした事例がこれから増えてきそう。■「野菜をつくってるんですが、環境フォーラムの事務所前で売らせてもらえないでしょうか」との電話あり。最近、野菜作りをはじめたばかりという若者だ。とりあえず、毎週日曜日午前中、販売することに。当団体も、今年は里山再生事業として、休耕地でのハト麦栽培のほか、野菜づくりも始める。環境保護団体らしい流通販売の取り組みができないものか。■ハト麦畑になる休耕地に、地元の農家さんをお願いしてトラクター入れ。その後の茅始末に追われる日々。

森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り 23

口を失くし、飲まず食わずで産卵に集中



フユシヤク

冬は生き物の気配が希薄な季節です。でも、そんな冬にしか見ることが出来ない生き物もいます。冬鳥全般や冬毛のテンなど色々といいますが、そんな中に「フユシヤク」という昆虫のグループがあります。

このグループは昆虫にしては珍しく、11月～3月頃という冬のとっつても寒い時期に成虫になり活動します。花の蜜も、樹液もなく、水分自体が限られている冬に、本来それらを飲んで生きている蛾の仲間がどうやって生きているのか不思議です。

実はフユシヤクの仲間は成虫になると口がなくなってしまい、飲まず食わずで2週間ほど生きてその間に子孫を残します。有名なカイコや、大きくて綺麗なオオミスアオやカゲロウの仲間なども同じです。

そんなフユシヤクですが、オスは一般的な蛾の形をしていて、多くの蛾と同じくメスがフェロモンを出してオスに見つけてもらい交尾をします。でも、メスの翅は退化していて飛ぶことが出来ません。これは食事のために移動する必要がないために翅を退化させ、産卵にエネルギーを集中させるという戦略をとっているためだそうです。飛んでいるためオスはそこそこ見かける機会も多いのですが、小さくて地味で動きのないメスは探して見つけるのはひと苦労で、偶然に出会えるとなかなか嬉しくなる生き物です。(愛場 結偉)

定例観察会のご案内

開催日 : 毎月第3日曜日
 集合場所 : かわせみハウス前
 集合時間 : 午後1時半
 (終わりは午後3時ごろ)

興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。鳩山ニュータウン内かわせみハウス前に午後1時に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りもご一緒できます。

はとやま環境フォーラムHP➡

